

P-A-2

多のう胞性卵巣症候群(PCOS)に対する **Grislin** の排卵促進効果

Ovulatory effects of an extract from Maitake mushroom(Grislin) in patients with polycystic ovary syndrome (PCOS): A randomized controlled study

○富永 國比古¹⁾ 中村 智子²⁾

1)ロマリンド クリニック 2)株式会社サン・メディカ

This study aimed to determine the effects of an extract from Maitake mushroom (Grislin) on ovulation in patients with polycystic ovary syndrome (PCOS).

The patients were randomly assigned to the two treatment arms for three months: The results summarized; 1) Grislin was effective in the treatment of PCOS (The Grislin group was 14 times more likely than the Shakuyaku-Kanzo-To (SKT) group to induce ovulation), and 2) The Grislin regimen improved the ovulation rate independent of insulin resistance. In conclusion, Grislin appears to promote aromatization of testosterone to estradiol in granulosa cells.

【目的】

PCOS は、生殖年齢女性の 5-10%を占め、臨床的に重要な疾患である。治療法としては、近年、インスリン抵抗性改善薬の有効性が報告されている。ところで、キノコの一つであるマイタケは、分子量約 2 万のグリコプロテインである **Grislin** を含有し、**Grislin** はインスリン抵抗性を改善する作用があることが報告されているので、インスリン抵抗性症候群に深いかかわりがある PCOS に対して、有効であるか否か検討した。

【方法】

芍薬甘草湯(以下、SKT)投与群を比較対照として、無作為化割付試験を行った。対象者は、2007 年日本産科婦人科学会生殖/内分泌委員会の診断基準に基づいて PCOS と診断し、説明の上同意が得られた患者 30 例であった。

【結果】

1) **Grislin** 投与群における排卵率(対周期)は、SKT 投与群に比べて有意に高かった(48.9% vs. 15.4%, $P=0.0011$)、対症例での排卵率は、**Grislin** 投与群に高い傾向が見られた(66.7% vs. 30.8%, $p=0.0581$)、2) 治療前後の内分泌パラメーターの変化を見ると、**Grislin** 投与群におけるエストラジオール値、および、エストラジオール/テストステロン比が、治療後に有意に増加していた(それぞれ、 $p=0.032$ 、 $p=0.038$)、3) 治療効果を比較するため、Multiple Logistic Regression Analysis を行い、交絡因子を補正して得られた結果によれば、**Grislin** 投与群では SKT 投与群に比べて、14.6 倍、排卵が得られ易いことが分かった。

【結論】

以上の事実から、**Grislin** は、PCOS に有効であることがわかった。その薬理学的機序は、インスリン抵抗性の改善効果のほかに、卵巣顆粒膜細胞の<アロマターゼ発現の抑制>を解除している可能性も考えられる。